

日本語と日本文学

第 23 号

今昔物語集における【ただ〔動詞〕に〔動詞〕】型表現形式の運用法
——その意味的特質との関連から—— ……………島田 康行……(1)

『羅生門』論……………高橋 龍夫……(12)
——感性から論理へ——

「父母」を詠む歌……………阿部 りか……(23)
——天平勝宝七歳の防人歌をめぐる——

「カナ」「カシラ」に関する考察
……………カノックワン・ラオハブラナキット …(左1)

自動詞文における格の代換について……………安 平鎬 …(左13)
——「発生」と「移動変化」をめぐる、「あふれる」を中心に——

『全一道人』の三濁点について……………関 丙燦 …(左23)

「日本語と日本文学」1号～22号掲載論文一覧 ……………(左34)

平成 8 年 8 月

筑波大学国語国文学会

投稿規定

一、投稿論文は四百字詰め原稿用紙三十枚（二万二千字）程度。ワープロ原稿の場合はフロッピーを添えて御投稿ください（原稿とフロッピーは原則としてお返しいたしません）。

一、原稿〆切は毎年二度、二月末日および八月末日。

一、原稿送り先

305 茨城県つくば市天王台一―一―
〒筑波大学文芸・言語学系事務室内

『日本語と日本文学』編集委員会

投稿案内

本誌では会員の皆様の御投稿をお待ちしております。

学会機関誌はいうまでもなく、学外のOB、学内の教官および学生の三者が一体となって、当該学問に貢献しうる学問的成果を公表してゆく媒体として存在するものがあります。従いまして、本誌の一層の充実

は、この三者の構成員の熱意に負うところが多大であります。本誌の価値を高め発展させてゆくためには、これら構成員から質の高い論文の投稿を仰がねばなりません。構成員、とりわけ学外のOBの皆様の積極的な御協力を願う次第です。

投稿は「投稿規定」により、また投稿原稿は編集委員会の審査を経た上で掲載させていただきます。なお、抜刷の作製料については投稿者の御負担とさせていただきます。御了承ください。

編集後記

『日本語と日本文学』第二十三号をお届けいたします。今回は本誌創刊号から前号までの掲載論文並びに執筆者一覧を掲載しました。昭和五十六年の創刊号より本号まで足掛け十六年、掲載論文の数は計百五十四本にのぼります。これまで本誌を継続できたのも学会員の皆様の御協力のおかげです。これからもすぐれた研究成果を世に問ひ続けていくために、学会員の皆様には本

誌にますますの御援助を賜りますようお願いいたします。

（坪井美樹）

平成八年 八月一日印刷
平成八年 八月一日発行

305 茨城県つくば市天王台一―一―

〒筑波大学 文芸・言語学系内

編集・発行 筑波大学国語国文学会

代表者 桑原博史

印刷所 ニッセイエプロ株式会社

Tel 〇二九八(五)七六五二